みどりのきずな

平成 28 年 1 月 1 日発行　第 27 号

編集:緑区支え合いのまち推進協議会広報部会　発行:緑区支え合いのまち推進協議会事務局 緑保健福祉センター内
TEL:043(292)8142　FAX:043(292)8276

緑区支え合いのまち推進計画
おゆみ野地区の重点目標
「ふれあい散歩」に参加して

委員長　岡本　博幸

『支え合いの街推進計画』は地域の実態に合った重点目標を設定、推進し地域の活性化を図ることが目的です。今回はおゆみ野地区の重点目標「高齢者が集う場の開設・拡充『ふれあい散歩』に参加した様子を報告いたします。

12 月 4 日（金）快晴強風が吹く寒い日。

9:10　講習室 2 で受付。問診票、血圧測定、健康診断を行う。

9:20　多目的室に移動。お茶・甘味等いただく。

9:40　中村会長挨拶「ご参加に感謝、今日は風が強いですがみんな元気で歩きましょう。」散歩の目的について「閉じこもりの高齢者を無くすこと・健康維持のために足腰を鍛えること・話し合いを通して人と人との触れ合いを大切にしたい。」

9:50　あんしんケアセンターの小林保健師の指導でストレッチ体操。

9:55　篠原委員のコース・トイレ他の説明と注意。家村委員長を先頭に出発。

10:15　泉蔵寺（真言宗豊山派）着。大塚委員から門、鐘楼、梵鐘、庫裏、鰐口・本堂（不動明王・薬師如来、金剛界・胎蔵界曼荼羅）勢至大菩薩（秘仏）の説明を聞く。

《この地域一帯は農業用水の源泉地帯。四十五か所余から豊かな水が湧き出していた。地下には豊富な『泉』の『藏・源』があることから泉藏寺の命名だろうか。泉は有吉、椎名崎、刈田子、古市場の田植、旱魃（かんばつ）時の大切な用水であった。水源保護のため春には村人総出で溝祓（みぞさらい）を行い水路を守ってきた。また導水をめぐって水争いの記録も残っている。》

11:00　有吉日枝神社・有吉貝塚到着。手水・本殿建立等の説明を聞く。《貝塚は縄文中期。吉の地名は『天文 21 年 7 月、里見義堯、下総の生実領なる有吉城攻む』とある。古くからの村落。「日吉神社は（日枝神社）と書く。『吉』の文字があるように『吉』事が有る村落にとの村人の願いが込められた命名か。日吉神社は古来、山王権現（農耕神）、または山王二十一社と称し朝廷の尊崇が厚かった神社》

《カッコ内は全て岡本の文責》

11:30　出発。春の道を語らいながらの帰路。山茶花が咲き乱れ、泉藏寺の崖下からは湧水が流れ出て、その水で山鳩が喉を潤していた。かつての泉谷の情景をみる。

11:50　公民館到着。ストレッチ体操。

会長の挨拶「今日のふれあい散歩の参加者は 20 名、ボランティア 17 名。参加者の中から①歩きながらの話し合いは楽しい。②ゆっくり歩き、見聞き、触れることは幸せ。③知見に対し畏敬の念を抱く。等々の感想をいただきました。ふれあい散歩はまさしく地区の支え合いの姿だと思います。この活動によって日々元気に生活できることを願っています。」

椎名地区

笑う門には福来る　「声を出して大笑い　健康寿命も延びばした」

古市場地区のいきいきサロン会場では、落語家（三遊亭金一師）をお招きして、「近所づきあい」という落語を聞きました。日頃は人とあまりしゃべらず、笑いを忘れた暮らしをしている私も今日は久しぶりに口を大きく開け、遠慮なく大声を出し、お腹をよじりながら大笑いをしました。

毎月第２火曜日
13：30～15：00
古市場団地集会所

誉田地区

やさしい地域づくりの敬老会

第 23 回　平山小地区敬老会が 9 月 21 日（月）敬老の日に開催されました。7 町内会と 2 団体で実行委員会を設置し、5 月から毎月会議を開催して、75 歳以上の高齢者を迎える準備を行いました。

高齢者の皆さんは、実行委員・接待委員が各町内会に気配りをしながら、スムーズな案内をしてくれたので、安心して席につくことが出来ました。

当日は、201 名の出席者が平山小学校の体育館に集まり、平山小児童の合唱・有吉中生徒の楽器演奏、ロウ学校のダンスの発表会を楽しんでいただきました。また町内会からは、チアダンス・踊り・合唱等の披露があり、近所のお姉さんは！家の孫は何処かと！首を長くしていた、おじいちゃん・おばあちゃんもおりました。

高齢者に限らず、地域の人が交流できるイベントを開催し、やさしい地域づくりが大切だと思いました。

土気地区

第21回ふれあい福祉フェスティバル開催

地域住民や障害者が楽しみながら地域福祉を考えるイベントが平成27年10月24日（土）25日（日）あすみが丘バーズモール（土気駅南口）で開催されました。1,600人を超える参加者や障害者の皆さんが多彩なパフォーマンスや手作り作品等の展示・販売・体験を存分に楽しみました。平成28年は10月22日・23日の両日予定しております。

おゆみ野地区

おゆみ野文化祭

11月22日（日）・23日（月）鎌取コミュニティセンターで行われ、曇天と糠雨もどきで気をもむ場面もあったが盛会裏に終了した。延べ数千人の来場者があったと思うのだが、未だに来場者の数を数えた人はいない。

こみこん祭りとして始まって20年、主催者もコミュニティづくり懇談会からアートタウンおゆみ野に変わった。善意の人の係わり方はそれぞれだが、今回の文化祭は汗を流した関係者の気持ちが多くの入場者に伝わった事は目に見えて分かってよかったと思う。見る入場者から参加する入場者に進化した方が結構いらっしゃったが、これが今回の文化祭のテーマの 1 つでもあった。机に座って製作に嵌まっている入場者の姿がいくつかのコーナーで見られた。

幼稚園児からシニアまで、盛りだくさんの楽しめるパフォーマンスだらけなのだから地域の皆さんに出来るだけご来場いただくようにお知らせするのが我々の務めだと思っている。

みずき・かつら街おたすけ隊の始動

今年度9月に、みずき・かつら街おたすけ隊を立ち上げました。

みずき・かつら街自治会は、創設以来30年以上が経過し、1 人暮らしや高齢者だけの世帯が多くなっています。住み慣れた街で高齢者が安心して暮らせる街づくりを目的とし、おたすけ隊による支援活動を行うことにしました。協力員は自治会のご協力により13名が集まり、支援活動を開始しました。

支援内容は・庭の手入れ・障子張替・網戸張替・生活必需品の買出し等、日常生活でお困りのことを支援していきます。

利用料金は、1回当たり500円で、利用者は自治会内にお住いの方に限定しています。

平成28年2月21日（日）
おゆみ野地区四季の道
駅伝大会開催

委員の一言コーナー

特別養護老人ホームときわ園
事務長　石本　春樹

―地域福祉の担い手として―

二十数年前の学生時代、ベルリンの壁が崩壊した。それと前後して、ソ連からゴルバチョフ元大統領が来日した時のことを覚えている。東側からやってきた解放的な大物としての彼は、東京や京都で企画された日本の学生との懇談会に積極的に参加するなどし、若かった私も非常に興奮した。当時のものであったか定かではないが、彼の発言で本当に驚いたことは「人類史上最も成功した社会主義国家は日本である。」と言ったことだった。もっとも今では、政治家のこの種の言説はリップサービスとかジョークの類であることが多々あることも承知はしている…。

長じて福祉の仕事に携わって思うことは、日本の社会保障は、十分かどうかはともかくとして、世界中の国々の間では発達している方の部類に属しているという認識である。そういう点でゴルバチョフ氏の発言は的を射ていると思うのだ。なぜなら、国家歳出予算の最大割合を社会保障費が占め、福祉という業界が確かに構成されてあり、職業としての福祉専門職が全国津々浦々で活躍していることにそのことが如実に表れているからである。福祉そのものの存在すらおぼつかない、紛争や貧困にあえぐ世界中の地域の人々を思うにつけ、有難さとともにその思いはますます深まる。比較的豊かで平和な国で生まれ、生活し、そしてあらゆる国が持ちえるわけではない福祉の職場で働いていることに感謝と喜びを見出しつつ、緑区の福祉の担い手として、地域の要請に応えられる施設として更なる精進をしてまいりたいと思う次第である。

千葉市身体障害者連合会
廣田　健次

戦後 70 年だった昨年は、戦争と平和に関して、国民の関心が高まった年でした。いろいろな観点から、戦争が語られたわけですが、障害者がどんな暮らしをしていたのかは、あまり知られていません。戦時下という特殊な状況の中、障害者達は、総じて厳しい現実と向き合い、それにひたすら耐えるしか無かったようです。これは、戦勝国・敗戦国の別を問いません。自由を手に入れた今も、あの忌まわしい記憶が語られる事はほとんどありません。

終戦後の日本には、働き手を亡くした遺族や戦傷病者など、社会的弱者があふれました。GHQ の要請もあり欧米から社会福祉の考え方を急速に取り入れ、今の福祉施策につながる法律や制度が整えられていきました。

日本製の義手や義足・車椅子などの補装具は、世界最高水準の品質と言われます。情報通信技術の発達によるコミュニケーション手段の多様化などで障害当事者も日常生活の中でその便利さを享受しています。ここで忘れてならないのは、これらはみな戦争による尊い犠牲とその後続いている平和な時代の賜物であるという事です。障害者も含め、特に社会的弱者と言われる人達は、平和だからこそ精一杯人生を楽しむ事が出来るのです。

安全保障関連法案が成立した今、日本を取り巻く状況は新しい局面に入りましたが、「二度と戦争の惨禍を繰り返さない」という、国民の思いは普遍です。それは、障害者も健常者も同じこと。ともに手を携え、国内外の平和を願って歩んでいきましょう。

編集後記

誰もが暮らしやすい町に住みたいといいます。でも暮らしやすい町とは誰かが与えてくれるものではありません。“みどりのきずな”では地域の盛んな活動を紹介しています。地域には必ずその活動を支えている人たちがいます。暮らしやすい町とは、とにかく明るい住民たちの『安心してください、支えてますよ』という気持ちで作られていくものだと思っています。(T.O)